

第2次福津市行財政改革大綱

資料編

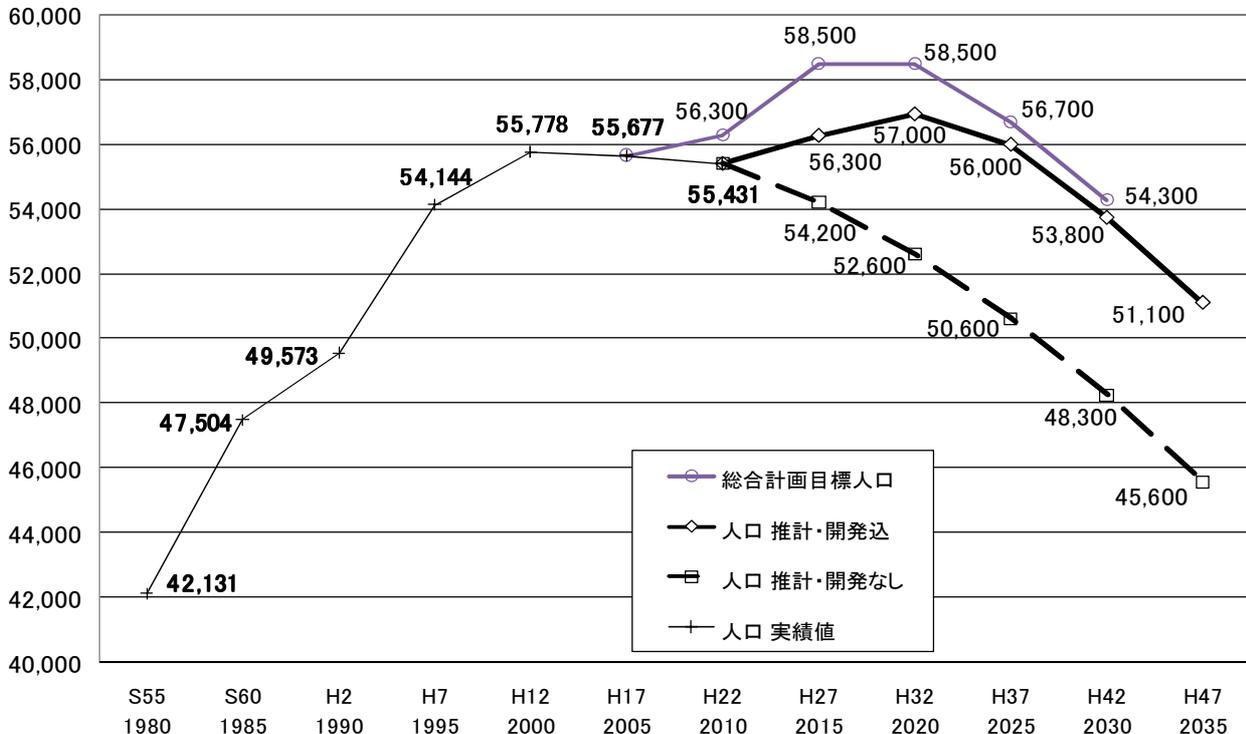
〈市を取り巻く状況〉

目 次

① 市の人口推計	1
② 過去10年間の近隣市町の人口増加率	2
③ 市の人口推計（年齢層構成割合）	2
④ 年齢別人口構成の変化予測	3
⑤ 市の税収の推移	4
⑥ 市の扶助費の推移	4
⑦ 市の物件費の推移	5
⑧ 市の職員数の推移	5
⑨ 市の職員年齢構成	6

① 市の人口推計

※ この推計については、これまでの人口動態から推計したものに駅東地区等の開発人口を見込んだものです。市内全域における今後の様々な要因により変化することが考えられます。

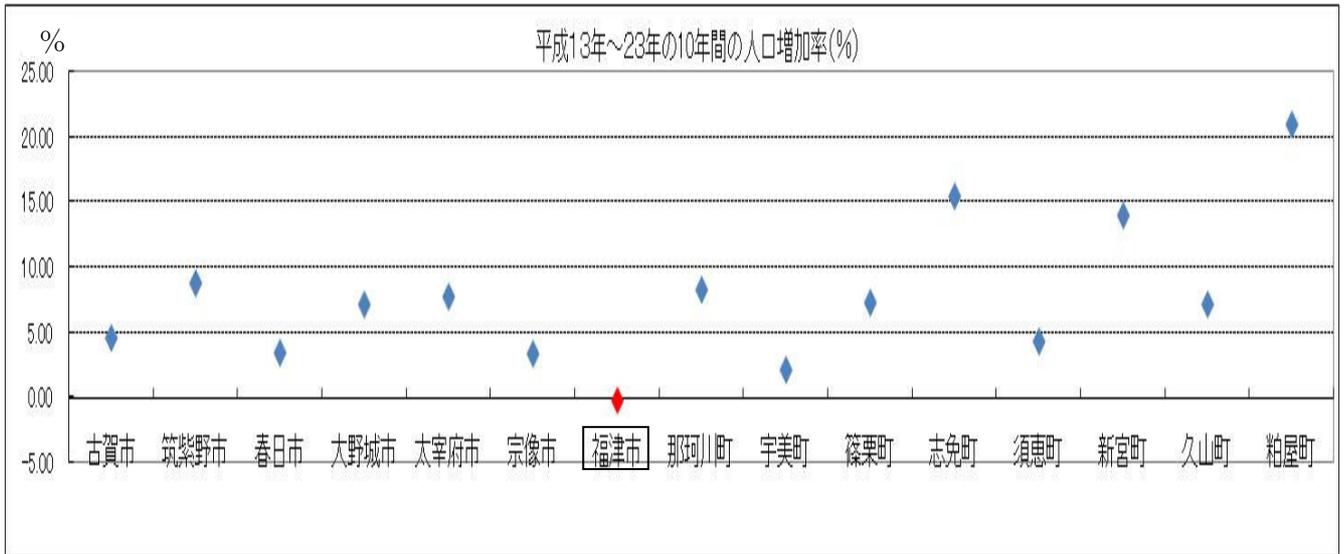


推計の一番下のラインはこれまでの人口動態からのみ推計した人口で開発人口等は考慮していないものです。一番上のラインは、平成18年度時点で推計した市総合計画（H19～H28）に掲げる目標人口です。その中間のラインは、目標人口に対する現時点での推計で、目標人口を下回る推計となっています。

これは、福間駅東土地区画整理事業の遅れや、出生率が回復していないこと、既存の大型開発団地の人口減少によるものと考えられます。

一方で、公共下水道事業の進展や駅周辺整備等の都市基盤整備が進んでいること、大型商業施設の開店等により、生活利便性が向上していることから、今後駅東地区をはじめ市内全域において、新たな人口の伸びも期待されるところです。

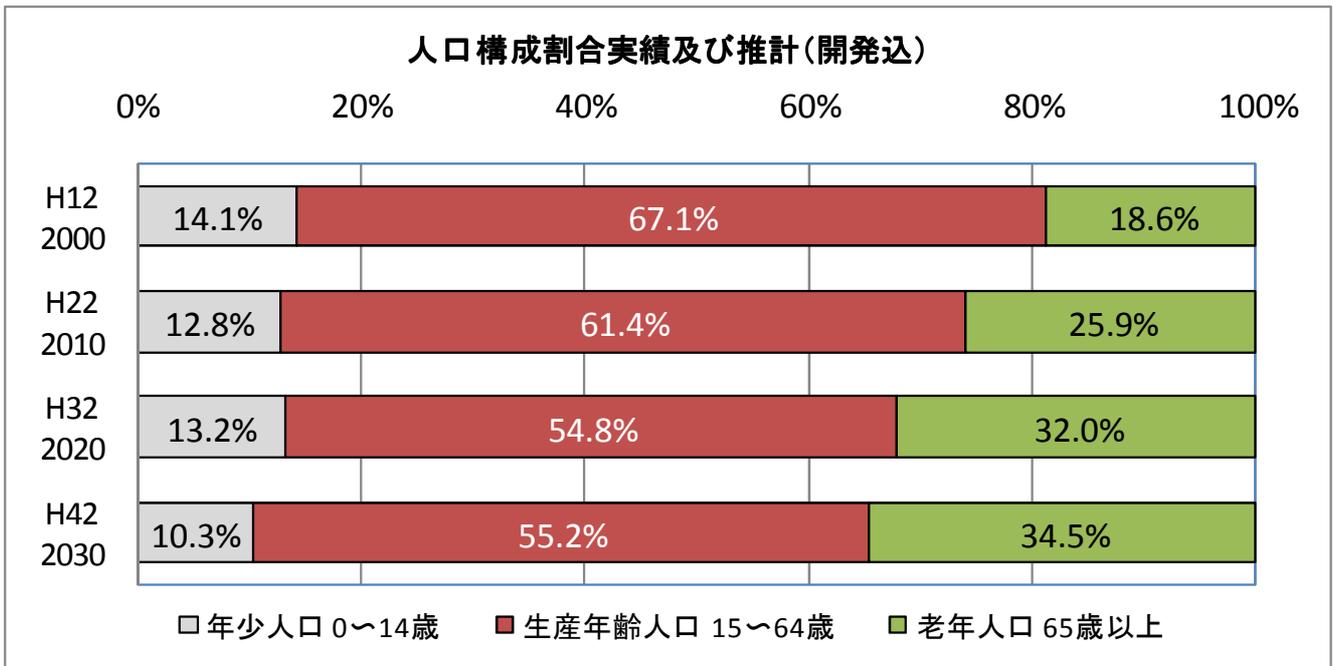
② 過去 10 年間の近隣市町の人口増加率



過去 10 年の間、福岡都市圏において福津市のみが僅かですが人口減少となっています。

③ 市の人口推計（年齢層構成割合）

※ この推計については、これまでの人口動態から推計したものに駅東地区等の開発人口を見込んだものです。市内全域における今後の様々な要因により変化することが考えられます。

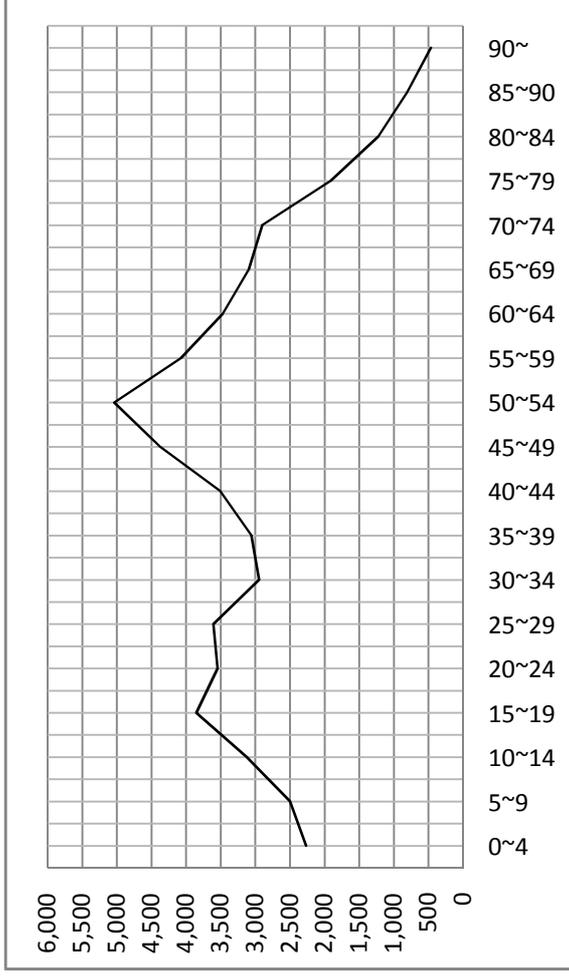


これまで予測されていた通り、今後は生産年齢人口（15～64歳）が減少し、高齢人口（65歳以上）が増加していきます。市の全体人口におけるそれぞれの割合が、大きく変化していくことが予測されます。

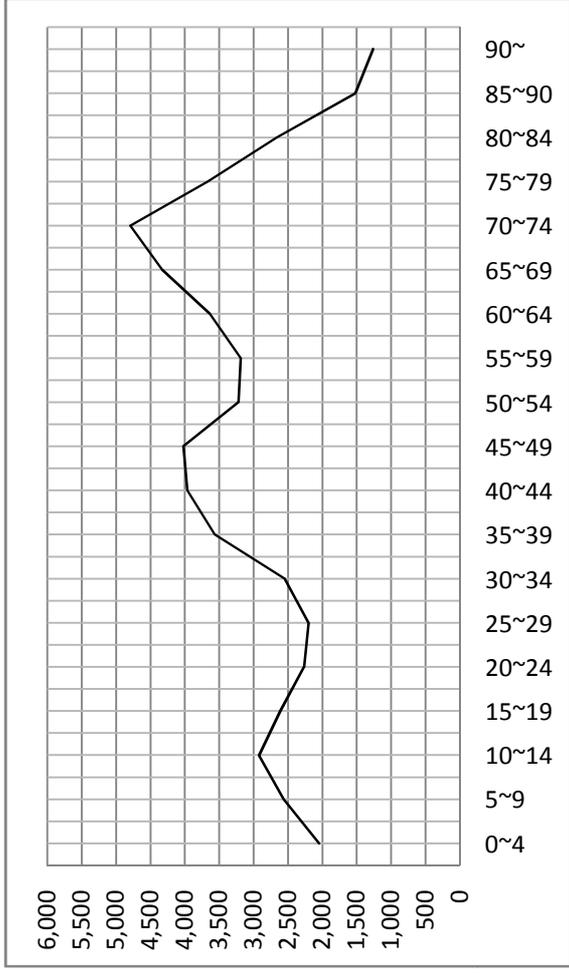
④ 年齢別人口構成の変化予測（駅東含む）

※ 推計については今後の様々な要因により変化することが考えられるため、あくまでも傾向を示すものです。

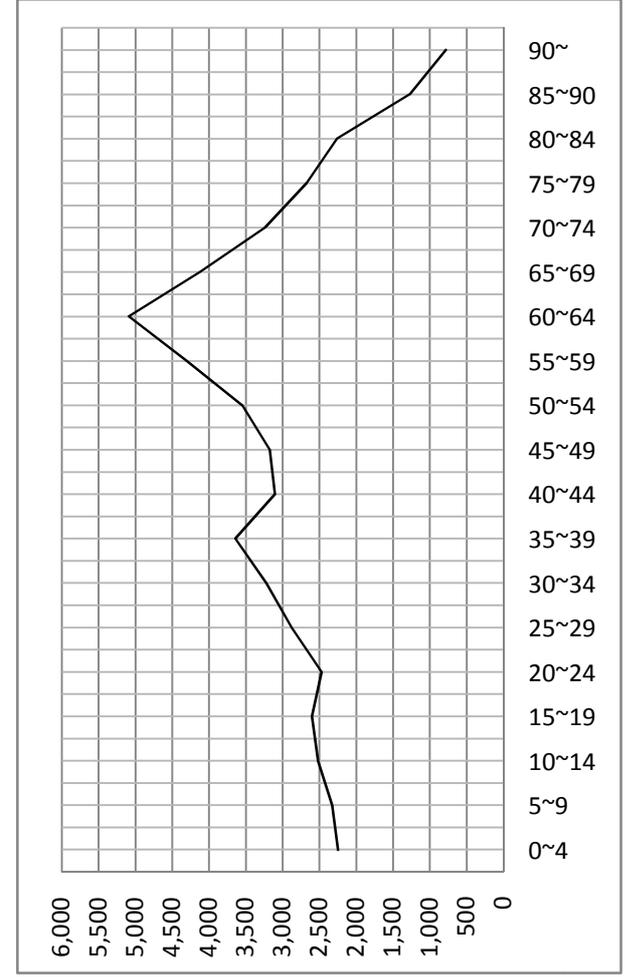
平成12年国勢調査



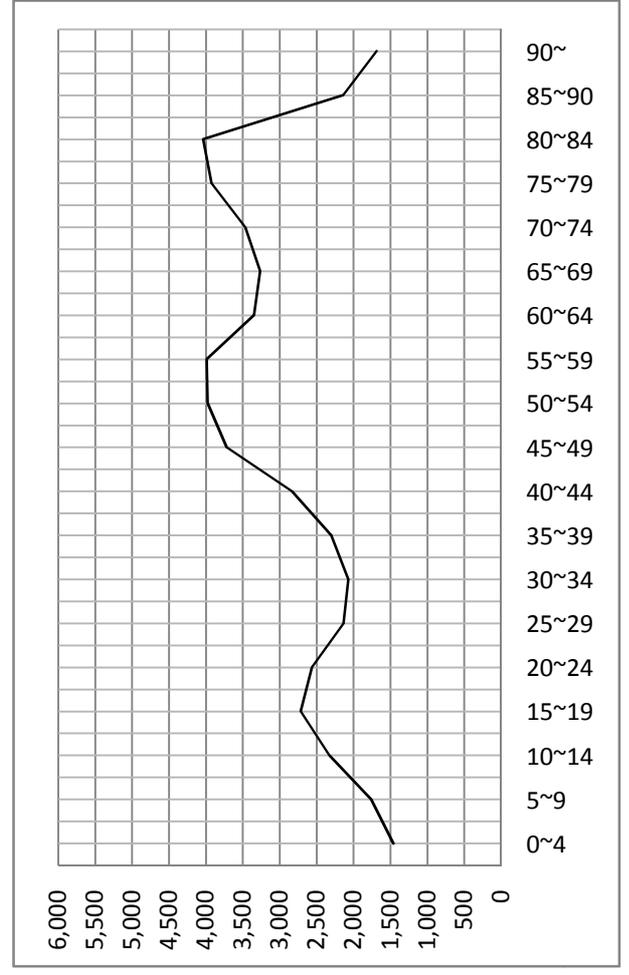
平成32年推計



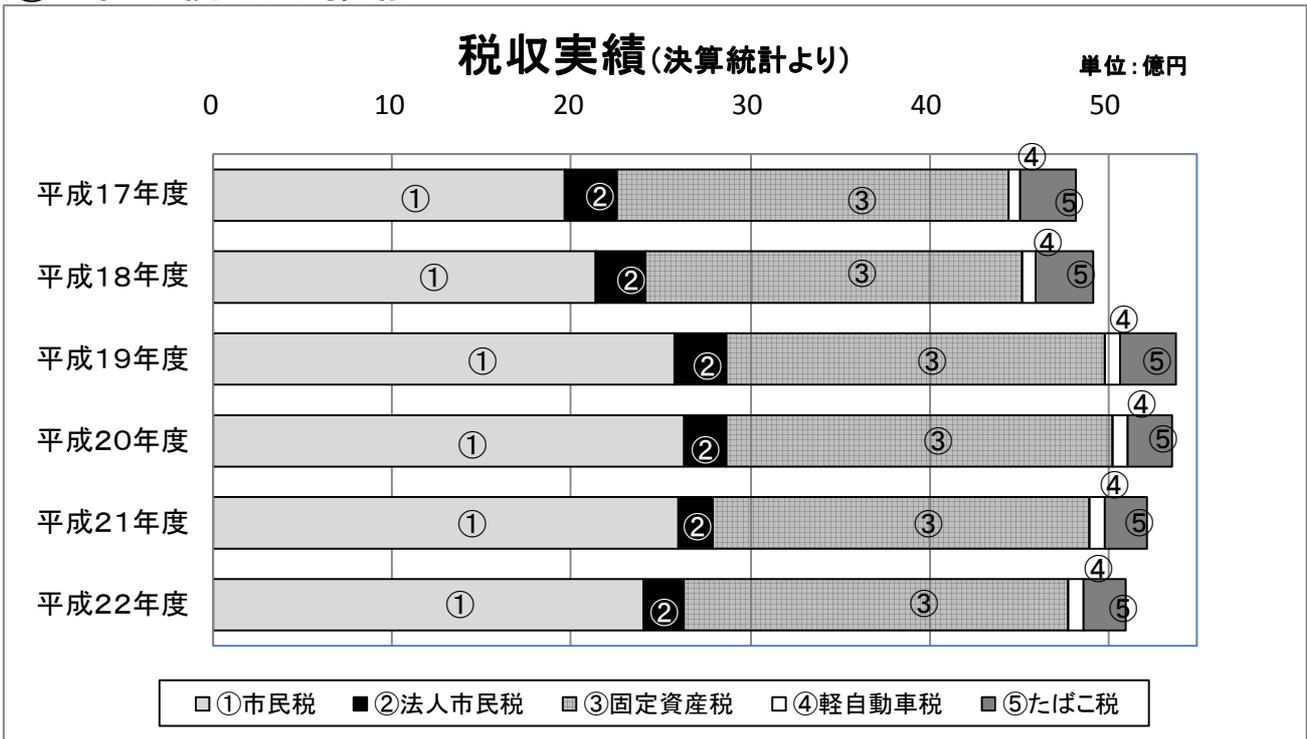
平成22年国勢調査



平成42年推計



⑤ 市の税収の推移

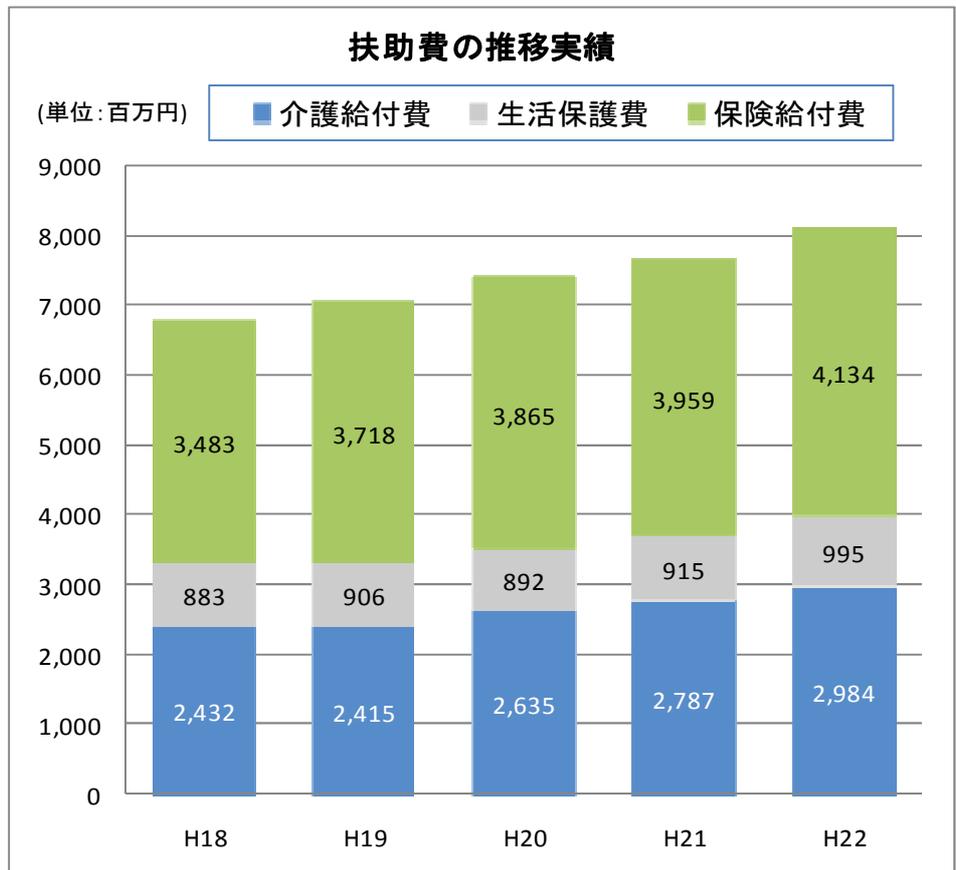


平成18年度から平成19年度にかけて、①市民税が増えているのは、国による税制の改正によるものです。平成19年度からは減少傾向を示しています。生産年齢人口が減少していることや経済情勢の影響によるものと思われます。

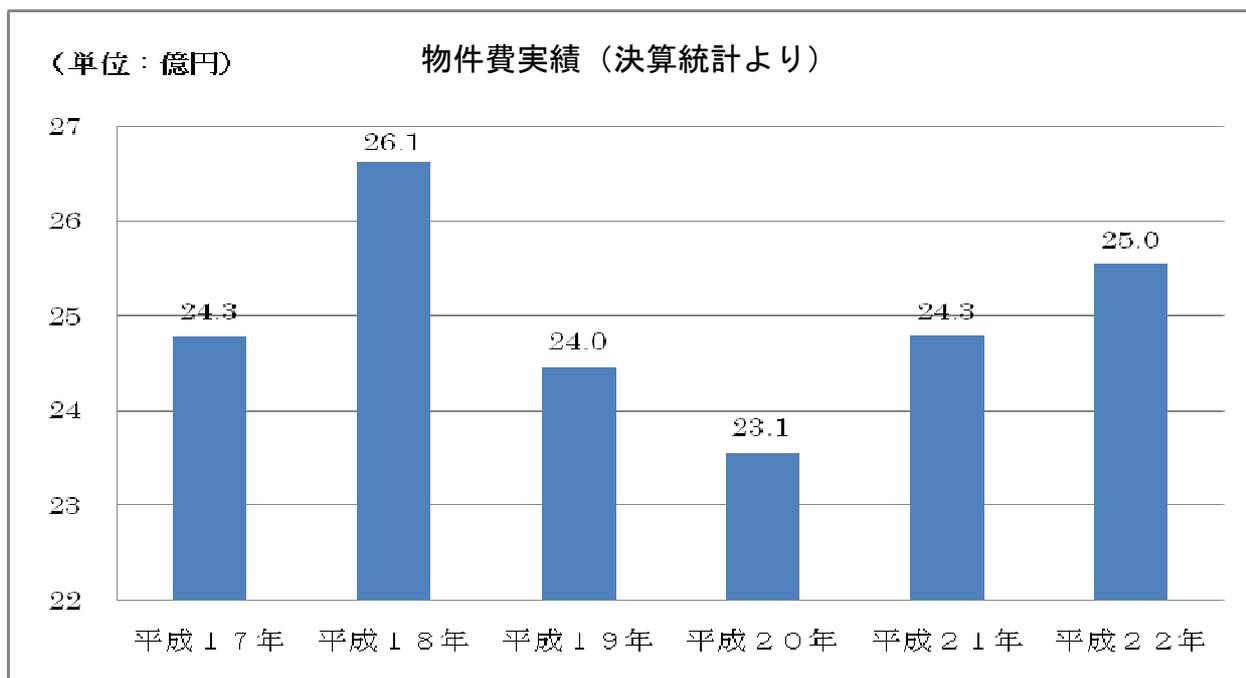
⑥ 市の扶助費の推移

ここ5年間の推移を示していますが、各給付費とも増加しています。

介護給付費は今後も当分の間伸び続けることが予測されています。

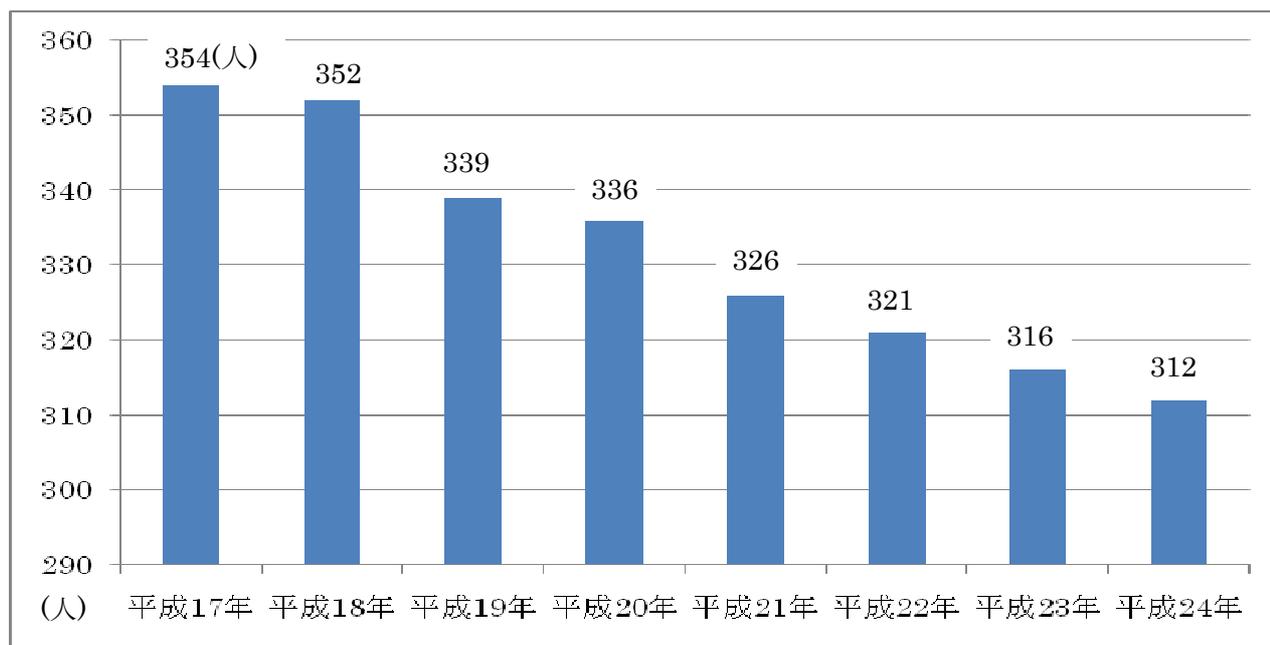


⑦ 市の物件費の推移



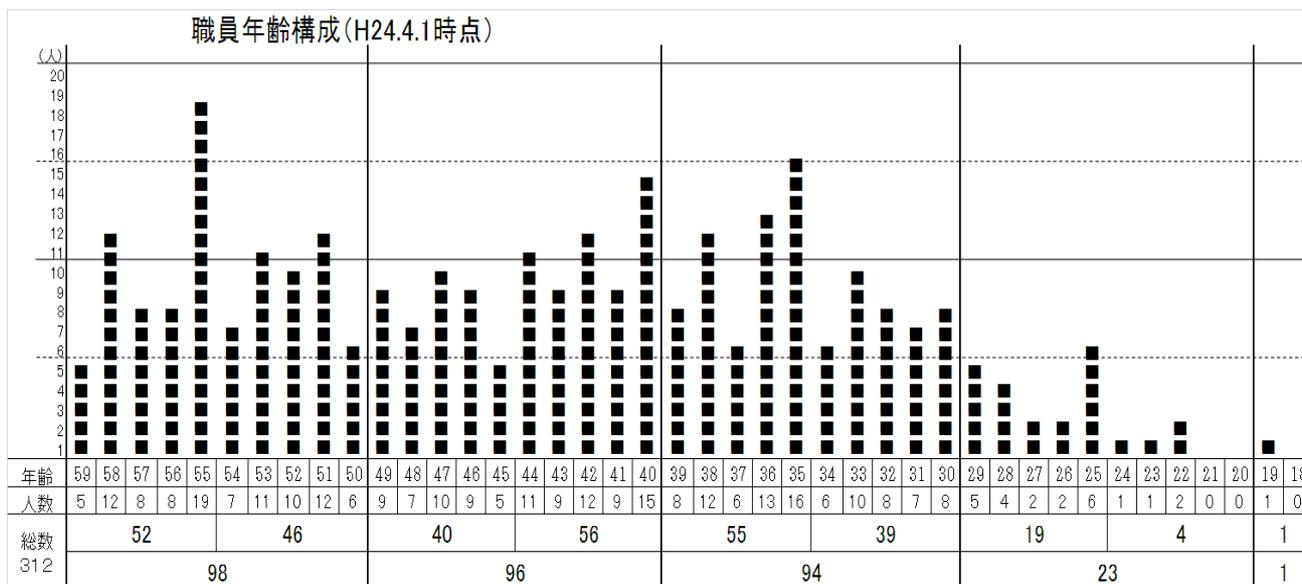
物件費とは、正職員以外の賃金や業務の委託料、施設の維持管理費等です。平成18年度が突出しているのは、合併後の電算関係の費用が大きかったことによるものです。ここ数年は増加傾向が顕著となっています。

⑧ 市の職員数の推移



平成17年の合併による福津市誕生から市の職員数は減少し続けています。

⑨ 市の職員年齢構成



20歳代職員の割合が非常に少なくなっていますが、職員削減のためには新規職員採用を抑制する必要があります。30歳代前半の職員も比較的少ないため、将来的に行政組織力の低下によって、市民サービスが維持できるか懸念されるところです。